

ほお葉で楽しむ郷土の味

毎年恒例の「恵那の味・伝承講座」が6月11日、アグリパーク恵那で開かれました。今回は、「ほお葉ずし」と「ほお葉もち」の作り方を学習。講師には、中野方町の「不動滝やさいの会」から、会長の池戸ぬい子さんと清水あやめさんを迎え、ほお葉の洗い方や保存の仕方、酢めしの作り方や具材、もちを作るときの水の分量など細かく指導。受講生は、質問しながら取り組み、出来上がったほお葉ずしとほお葉もちをおいしそうに試食しました。



▲色どり良くほお葉ずしの具材を乗せる受講生たち

少し汚い川と判断

岩邑小学校4年生の児童49人が総合学習の時間として、岩村川の岩村橋上流で、6月11日、カワゲラウォッチングを行いました。カワゲラは水のきれいな川に生息し、水質調査などの指標生物として利用されています。調査の結果、カワゲラも生息していたが、汚い川に生息するヒルなども見付き、岩村川は少し汚い川と判断されました。

今後は薬品を用いた水質検査も行い、児童たちは水を取り巻く環境について知識を深めていきます。



▲石の裏に付いている虫を調べる児童たち

オアシス21で観光物産展



▲多くのお客さんにぎわう観光物産展

6月7日、8日の2日間、名古屋市栄の「オアシス21」で恵那市観光物産展が開催され、約5万人の来場者がありました。

市内13地域の名物が一堂に会した同物産展では、ほお葉寿司や新鮮な野菜など地域独自の特産品の展示販売や観光地の案内などがあり、中京圏の皆さんとの交流の場となりました。また、ステージではそれぞれの地域で活発に活動している郷土芸能が会場を盛り上げました。

市操法大会で岩村優勝



▲操法を行う岩村分団

第4回市消防協会消防操法大会(小型ポンプの部)が、県クリスタルパーク恵那スケート場で、6月8日に開催されました。操法大会は模擬消火訓練として実施され、消防団員の技術向上と士気の高揚を目的としています。大会では標的が倒れるタイム(基準45秒)に、確実な動作やチームワークなどを加味し総合的な審査で順位を決めます。

優勝は岩村分団。8月3日に富加町で行われる県消防操法大会に、市の代表として出場します。

明智川にアユを放流

日本大正村の浪漫亭裏を流れる明智川で、明智小学校と吉田小学校の児童が約2,000匹のアユを放流しました。明智小の4年生42人と吉田小の3・4年生16人は、6月2日小雨の降る中にもかかわらず、矢作川漁業協同組合明智支部の堀鉦支部長の指導を受け、大きくなるアユを楽しみにしながらバケツで川に放しました。

堀支部長は児童に「川に親しむとともに、ふるさとの川を大切にしてほしい」と話しました。



▲明智川にアユを放流する明智小と吉田小の児童たち

伝統芸能で日本の心を学ぶ

地域の方から伝統芸能や作法・礼儀を習うことで、日本の心と豊かな人間形成を図ることを目的とした芸能選択授業が、6月5日、上矢作中学校で行われてました。この日は、同校2年生と3年生46人が参加。華道を選択した生徒は、小木曾敏子さん指導の下、見事な生け花を制作。また弓道では、太田尚伸さん、近藤信雄さん指導の下、礼儀に始まり礼儀に終わる作法と、集中力が決め手となる競技を習い、生徒たちは真剣に取り組みました。



▲真剣な表情で花を生ける生徒たち

家族と一緒に風鈴づくり



▲楽しそうに風鈴づくりに取り組む親子

夏の風物詩の一つである風鈴を、自分で作ってみようと、山岡陶業文化センターで5月25日、風鈴づくりが開催され、約20人が参加しました。参加者は思い思いの模様や飾り付けを楽しみながら取り組み、初めて参加したという原智宏さん(大井町)は、「子どもと一緒に作るのを楽しみにしてきました。4つの風鈴を並べてみたら、きっとおもしろいと思います」と、子どもの好きなクワガタやウサギの形を作りながら、焼き上がりを楽しみにしていました。

自分の健康を考える



▲簡易健康チェックを受ける皆さん

6月1日、まきがね公園とその周辺で2008健康・福祉祭が行われ、約4,000人の市民らが来場しました。開会式では可知市長が「日頃から自分の健康を考えてほしい」とあいさつをしました。また現在80歳で自分の歯が20本以上ある方へ「8020表彰」の授賞式も行われました。

会場では、脳年齢測定や血管年齢測定などの簡易健康チェックコーナーや歯磨き指導などの歯科保健コーナーなどがあり、多くの人でにぎわいました。

『江戸のヒーロー・ヒロイン』展

中山道広重美術館
企画展覧会

■会期
7/24(木)～8/31(日)

■会館時間 午前9時半～午後5時(入館は午後4時半まで)

■観覧料 ▷大人＝500円(団体400円) ▷小・中・高校生＝無料

毎週月曜日(祝日を除く)、祝日の翌日(土日・祝日を除く)休館。

■問い合わせ 中山道広重美術館 ☎20-0522



歌川豊国(三代)
「木曾六十九驛 落合
釜ヶ橋 石川五右衛門」

大判錦絵 1852(嘉永5)年
版元:辻岡屋文助 当館蔵(田中コレクション)

歌川豊国(三代)の「木曾六十九驛」のシリーズは、宿場にちなむ役者絵で、街道風景を背景に人気役者の半身像を描くというものです。本図は、中山道44番目の宿場・落合宿を背景に、盗賊石川五右衛門が描かれています。これは落合宿の入口に架かる落合橋が、またの名を「釜ヶ橋」といったところから連想して、釜いりの刑に処せられた石川五右衛門を登場させています。

第1日曜日は「市民の日」

毎月第1日曜日を「市民の日」とし、観覧料を無料とします。気軽に美術の世界に触れていただき、美術を中心とする文化活動やまちづくり活動の拠点に活用いただけるよう願っています。

文化財を巡る

②岩村城跡の基本(その1)

岩村城跡は、「日本三大山城」、「日本百名城」(財団法人日本城郭協会)にあげられるなど、全国的にも知名度が高く、城郭ファンだけでなく、多くの観光客が訪れる城跡です。そのため、古くから城の研究書やガイドブックなどに、さまざまな形で紹介されています。しかし近年、新たに分かったこと、確かめられたことはまだ反映されていないのが実情です。

歴史的な記述は、発掘調査の成果や新たな史料の発見、研究の進展による研究成果の見直しによって、改訂されていくものです。ここでは、現時点での岩村城のごく基本的な歴史的、国語的な事項を数回にわたって確認していきます。

□名称と読み方

岩村城跡【いわむらじょうせき】市と県史跡、遺跡の登録名ともこの名称です。よく岩村城址(趾)【いわむらじょうし】と書かれていることがあります。こちらの方が趣があって現在の雰囲気合っていると感じる方も多いと思います。「址・趾」は常用漢字(一般的に使用する標準的な言葉)ではなく、学校で教えない、新聞で使わない旧字ですので、市としては使わ

ないことにしています。

読み方は、城を【じょう】と音読みする場合は、「跡」も音読みするので【じょうせき】と読みます。「城跡」単独の場合は、【しろあと】と読むことができます。なお、城址公園【じょうしこうえん】は固有名詞として扱いますので、そのまま使用していきます。

□問い合わせ 文化課 ☎43-2112(内線217)



▲趣がある本丸西側の高石垣

町民が奏でるコンサート

6月20日、中野方小学校体育館で第9回ほたるコンサートが行われました。これは町内の一体感を高めようと毎年開催されており、この日は、地元のバイオリンサークルによる演奏や同小学校の児童による合唱、名古屋を中心に活動をするアコースティックバンド「シノメソラ」による演奏などがありました。訪れた約300人のお客さんは、児童らの元気な歌声や本格的なバンド演奏に触れ、一味違ったコンサートに聞き入っていました。



▲元気よく歌う中野方小学校の児童たち

中学生の代表が主張

第4回の市少年の主張大会が、6月21日に恵那文化センターで開催されました。市内の各中学校からの代表13人が「生活のこと」「友達のこと」「将来の夢」「命の大切さ」「環境のこと」などをテーマに力強く発表し、聞く人の共感を呼びました。

最優秀賞に選ばれたのは、命の尊さを訴えた伊藤咲希さん(恵那西中3年)。優秀賞には、林誠悟さん(恵那東中3年)、水野芽さん(山岡中2年)、山本紋加さん(恵那東中2年)でした。



▲最優秀賞に選ばれた伊藤咲希さん

花を植えて美しいまちに



▲花のまち恵那と恵那農業高校生との植え付け作業

恵那駅前の西側通りを中心に、6月19日の蒸し暑い中、花のまち恵那のメンバー約70人と、恵那農業高校2年生37人が協力して、歩道の花壇に花を植え付けました。花は高校生が育てたもので、サルビアやマリーゴールドなど6,000株でした。

副代表の平山盛秀さんは「この活動も8年目、最初はまちをきれいにしようと始めた。以前はゴミがたくさん落ちていましたが、今ではまちがきれいになってきた」とうれしそうに話してくれました。

児童や園児と楽しく交流



▲手作りかるたを児童と楽しむ参加者

武並コミュニティセンターで6月20日、地域のお年寄りを対象に、子どもたちとの交流を目的として毎年行っている「おとしよりの皆様とのおしゃべり会」が開催され、約60人が参加しました。

この日は、武並保育園の園児による童謡の合唱や手遊びのほか、武並小学校5年生児童の合唱とリコーダー演奏が披露され、参加者から温かい拍手が送られました。その後、児童らと手作りのかるた取りなどを行い、楽しいひとときを過ごしました。